

# 楠木正成の人生年表

年号 西暦 年齢 出来事

永仁二 一二九四 一 河内・金剛山の麓の赤坂郷で生まれる（幼名は多聞）

（幼少から三八歳までの間、大江時親より兵法「孫子」「鬪戦経」を学ぶ）

文保元 一三一七 二四 文保の和談（皇位継承問題に鎌倉幕府が介入）

文保二 一三一八 二五 後醍醐天皇即位

元享二 一三二二 二九 八月、紀州国安田荘の湯浅庄司を討伐（初陣）

幕府より安田の領地を与えられ、朝廷より兵衛尉の官位を受ける

正中元 一三二四 三一 九月、正中の変

正中三 一三二六 三三 長男・正行（まさつら）生まれる

元弘元 一三三一 三八 九月中旬、後醍醐天皇の笠置山挙兵に応じ、下赤坂城で兵を挙げる

元弘二 一三三二 三九 三月、後醍醐天皇、隠岐に流される

四月、下赤坂城奪回

上赤坂城及び千早城を築城

元弘三 一三三三 四〇 一月中旬、渡辺橋の戦い

一月下旬、天王寺の戦い

二月下旬、上赤坂城の戦い

閏二月下旬～五月上旬、千早城の戦い

五月七日、鎌倉幕府滅亡

建武元 一三三四 四一 建武の中興、摂津・河内の守護に任ぜられる

建武二 一三三五 四二 一二月、箱根竹ノ下の戦い（新田義貞が足利尊氏に大敗）

新田義貞の救援を進言するも、公卿により潰される

建武三 一三三六 四三 一月上旬、京洛の戦い（宇治川の線で京都を防衛）

一月中旬、琵琶湖畔の坂本に向かう退却行軍

同、大津付近の戦い

一月下旬、新田義貞軍を京都から収容

同、京都奪回作戦（山地の攻撃、欺騙・陽動）

京都奪回後、足利軍を楠木軍単独で追撃

二月上旬、豊島河原の陣地攻撃

二月中旬、越水の遭遇戦

新田義貞の追放及び足利尊氏との和睦を進言するも認められず

四月三日、九州の備えを固めた足利尊氏、博多を出航

五月一日、必勝の戦策、公卿の介入で潰される

五月二五日、湊川の戦い、弟・正季（まさすえ）、一族郎党と共に討死

（楠公没後）

後醍醐天皇、吉野に逃れて南朝を開く

光明天皇即位（北朝）

建武五 一三三八 足利尊氏、征夷大將軍となる 新田義貞、北陸で戦死

正平三 一三四八 楠木正行、四条畷の戦いで戦死する

# 楠木正成が戦った戦場等



詩吟作・雨森精翁／編曲・坂下 滉／吟詠・大久保国貞

## 楠公

菊水の旗は翻る千早城ひるがえ

勤王の義士雲の若く生ずごと

元弘の天子播遷の日はせん

一木纒わずかに支ふ大厦たいかの傾くを

作詩・山添花秋／作曲・斉藤 覚／編曲・坂下 滉／歌・吟詠 川邊龍岳

## あゝ大楠公

帝安かれ 楠ありと

告げる童の 夢枕

起てば無敵の 大楠公が

誓う忠義の 笠置山

天に叛いて 寄せ来る敵を

迎え討つべし 千早城

旗は菊水 がかげる山に

明日も轟け 関の声

(詩吟Ⅱ作・徳川景山)

豹は死して皮を留む 豈偶然ならんや

湊川の遺跡 水天に連なる

人生限りあり 名は尽くるなし

楠氏の精忠 萬古に伝う